平成３０年度　第２回　境港市まちづくり若者委員会　会議録（要旨）

　日　時　　平成３１年２月１９日（火）午後２時～午後４時２０分

　場　所　　境港市役所第６会議室（委員間討議）、第３会議室（市長との意見交換）

　出席者　【委　員】

　　　　　　赤石 委員長、遠藤大輔 委員、遠藤 緑 委員、大坂 委員、

竺長 委員

　　　　　【　市　】

　　　　　　中村市長、伊達総務部長、藤川防災監、

山田自治防災課長、足立自治防災課課長補佐兼自治防災係長

　傍聴者　　なし

　＜次　第＞

１　開会

２　オリエンテーション

　　・事業説明

３　本日のテーマ「防災」に係る市の説明

４　委員による意見交換・討議

５　市長と委員との意見交換

６　閉会

＜会議録（要旨）＞

◆次第１～２は省略

■担当課からの説明

●防災講演会について

　・日程、講師、市の施策に関する説明を行い、委員には、防災講演会で聞きたいことを

伺って、講演の内容に反映させる。より多くの若い世代に参加してもらいたい。講演

会は、委員会の了承により共催事業とさせていただいた。

　●欠席委員からの意見を紹介

　　○ライフラインが停止した時にどう暮らすか。

　　○備蓄は何日分必要か。

　●連携備蓄について説明

　　○備蓄品リストの紹介

　　○連携備蓄の仕組み

　　○過去の境港市の災害事例（停電、水道管凍結時のトイレ対応）

　●段ボールトイレの組み立て体験、非常食作成、試食。

　●地域の支えあい活動の紹介（要支援者の住居を示したマップの活用）

■意見交換：

　・災害時に高齢者支援が問題になる。日ごろから顔なじみの関係があることが必要。

　・町内の祭りの中で防災を当てはめるといい。

・被災する前にできることがポイント。

　・講師に事前に境港市の防災活動の状況を伝えて、講演会で触れてもらうと、より活動

が活性化する。

　・みんなで隣近所のコミュニケーションをつくるべき。

　・若者が地元の中ではなかなかできていない。

　・境港市で起きる災害で、一番可能性があるのは地震。地震による液状化がある。

　・講師にもあらためて、地震の話に触れてほしい。（南海トラフとか）

　・境港は災害に関する意識が低い。

　・地震よりも雪とかはあるかもしれない。そういった時に停電もあるので、講演会で触

れてもよい。

　・災害時にオール電化住宅だからどうするか知りたい。

　・災害時（避難する時）にペットはどうするのか。ペットの食事の備蓄はどうか。

■市長との意見交換

　司　会

　「そうしますと、これまで委員の皆様には、別室でいろいろ協議をしていただきました。

　本日は、委員の皆さんに簡易トイレの組み立てから、備蓄をしておりますアルファ化米を試食していただいたりしながら、防災について話をしていただきました。メインとしては、３月に開催します防災講演会について、どういった内容に関心があるかという事を、いろいろお聞きしたところです。まず本日は初めに、委員長のほうから、先ほど意見交換をしていただいた内容について、発表をしていただいて、それに応えて市長からひと言お願いできたらと思います。」

　委　員

　「この防災講演会の中で、若者目線という事で、自分の方から話をしましたのは、災害が起こるまでに、講師さんが取り組んでいる、高齢者見守りボランティア、地域の支えあいを強めることで、被災した時にコミュケーション、ネットワークが生かせるような事例があったりすると、若者として、積極的に取り入れていきたいし、興味がある部分なので聞きやすいという話をしました。例えば災害に関する意識が低いとか、今までに境港という所自体が、あまり大きな災害というのを受けたことが中々無いので、意識が低いという事もあるので、そういった中で、（講演では）リアリティのある話を聞かせてもらえるのは、若い人にとっても、貴重な体験なのかもしれません。境港の防災講演会という事で、地震とかよりも大雪が一番可能性として、大きな災害になり得るという話も出ていました。停電があったりした時に、どういった物を備蓄しておくといいのかとか、もう少し境港（という場所）にあった防災講演会になると、自分たちも聞きやすいと思います。あと、ペットを飼っている方も時代的には多いので、そういう方に対して、避難所へ行く時に、こういった物も準備したらとか、話をしてもらうと興味があるではないかという話がありました。境港ならではの取り組みであったり、担当課のほうからも、こういう物を備蓄しているとか、説明がありましたが、意見には『備蓄は何日分備蓄すればいいのか』とか、その中でどんな事ができるのか、そういった質問に対する答えも聞かせていただくと講演会の中身ももっと濃くなると思います。少しテーマとは違いますが、『あんしんトリピーなびアプリ』の紹介チラシをいただいたり、携帯電話を使って若者が、自分たちに危険が迫っている事の情報量を入れられるかなどについても話が出ました。」

　市　長

「皆様には、防災に関して、いろいろな視点から意見をいただきました。我々は、日頃から防災という事については、市民の安心安全をいかに守っていくかが、市政の本当に大きな課題です。災害に対する意識がまだまだ低いといった状況の中で、市民の皆さんにいかに啓発していくのか、あるいは実際に災害が起きた時は、どういった行動をして、被害を最小限に防いだり、一生懸命考えて計画に盛り込んでおります。ただそれが万全のものということではないので、皆さんの様な若い人たちの意見をいただいて、他のところでも意見をいただいて、より実効性を高めることが今の一番の仕事であるという具合に考えています。平成２２年１２月末からの豪雪は大変でした。停電が長く続いて、特に内浜の方は特にひどかったです。長期に渡る停電は本当に怖い。盲点ですね。そういった事も今度の講演会でも触れてもらったほうがいいと思います。雪が降る地域だから石油ストーブも１つはあるといいですね。ペットの問題も出ましたが、ペットは家族のような存在ですので、大切に対応する必要があります。本日は若い世代の皆さんのご意見をいろいろお伺いしたいと思いますので、よろしくお願いします。」

　委　員

「若い人たちの防災の意識を高めるため、町内まつりで消火器を使って、ゲーム感覚で子どもたちと消火体験することがある。そういった機会があって、会場自体が避難場所だったりして、防災意識を高めて、またそこで近所の人たちとも顔見知りになって、コミュニケーションを取ることが、被災した時でも大事になってくる、というような話もしてもらえたらいいと思います。若い人たちへの意識づけになります。」

　市　長

「地域の身近なところで訓練する事が啓発になりますから、地域ぐるみでまずは自分が、『自分の身は自分で守る』日頃の備えをやる、次は地域みんなで助け合って、災害を減らす、あとは長期的な対策をどうするかという事になると思います。そういった意味では、地域での防災活動というのは、平素の防災活動もですが、いざという時は、若い人の力はやっぱり重要。４０~６０代でもまだいいかもしれないが、３０代の人が居れば、やはり力になります。この中に、自主防災組織に入っている方はいらっしゃいますか。」

　委　員

　「うちの町内には無いです。」

　総務部長

　「境地区には（防災組織が）少ないです。」

　委　員

　「私が特に関わっているという事ではないです。」

　市　長

　「若い人が関わって活動すれば、組織に元気が出ますから。」

　委　員

「支え愛マップとかの取り組みは、上道で活発と伺いました。」

　市　長

「上道地区では要支援者の避難にも取り組んでおられます。」

総務部長

「上道は毎年、除雪隊を編成されます。」

委　員

「すごい取り組みですね。」

市　長

「若い方が積極的に参加することが力になります。一生懸命やっておられる高齢者の方から、若い人に対する働きかけも大切だと思います。もっともっと声をかけて、上手に地域の力を引き出さないといけません。境港でも自治会に入らないアパート住まいの若い方が多くおられます。何かあった時には、こういった方がすごく力になると思います。」

　市　長

「南海トラフの事も何年か先に起こると言われていますが、防災講演会では、専門家の方に取り上げてもらうのがいいと思います。あれだけの地震が起きたら、日本海側の我々の方はどういう状態になるのか認識をしておくことが大切になります。」

　司　会

　「南海トラフの一番大きな想定でいくと、境港は震度５弱なるということです。近くの

断層でなくても、境港は揺れやすいということで、地震には備えておかなければいけな

いという事も先ほどお話をしたところでした。」

　委　員

「実際に簡易トイレも組み立ててみましたが、けっこう難しくて、そういった体験をすることも取り入れるのが良いと思います。」

　市　長

「避難所もたくさん開設しますが、市役所の職員だけでは、すべての避難所の円滑な運営はできません。そういった時には、地域の人の手助けで避難所の運営をしていかなければなりません。

　司　会

　「地域防災計画でも、避難所を設置してから、一週間後ぐらいから地域の人たちで避難所運営をしてくださいという事になっていますが、自治会長さんが集まるような講演会では、そういうお話をしましたり、避難所運営ゲームというのがありまして、やっていただいたりという事はあるのですが、そういった会場に若い方はたいへん少ない状況です。そういう話だけでも今日、聴いてもらって、段ボールトイレを作ってもらっただけでも、大変よかったと思います。」

　市　長

「企業の役割というのはどうなのでしょうか。」

　委　員

「会社の３階に食料品を備蓄していますが、住民さんに配るようにはしていません。」

　市　長

　「運送事業者になると、災害時の物資の運搬とかあるので、燃料とかもあると思います。運転手の食料も自分の所で準備して、それで運送をしっかりやるという事にならないといけません。」

　市　長

「災害はいつどんな災害が起こるかわかりません。日ごろから実効性のある備えをすることが一番大切だと思います。それには、若い人の力はそういう時に重要になります。ぜひそういった事も、皆さんからも呼びかけをしていただければ、ありがたいと思います。行政は行政で頑張っていきます。防災の計画に反映できるものは、次の機会に反映させてください。」

　司　会

　「今回の講演会にはチラシの下に、共催という形で、青年会議所やまちづくり若者委員会、市の職員で作っている若者未来創生チームにも協力していただいています。最後にこの委員の皆さん方は、２年任期で今回が最後になります。２９年度３０年度の２年任期を務めていただいて、今回が最後のまちづくり若者委員会となります。」

　市　長

　「第１期のまちづくり若者委員会では、皆さんには２年間いろいろお世話になりました。続けていただける方は、ぜひ継続してください。いろいろお世話になりました。委員でなくなっても、何か気が付いたことがあれば、直接それぞれの担当に物を言っていただきたいと思います。それは我々にとっても、行政の方にとっても、本当に良いことですから、いろいろな施策を考えるうえで、市民の皆さんからいろいろなお話を聴くのは、有意義なものです。ぜひ引き続いてその点はよろしくお願いしたいと思います。ありがとうございます。」

　司　会

　「では、これで第２回のまちづくり若者委員会を終了したいと思います。本日はありがとうございました。」